

視 察 報 告 書

令和4年6月10日

伊勢市議会議長 世古 明 様

自由民主党

幹事長 野崎 隆太

先進地視察を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

日 時：令和4年6月2日～3日

視察事項： 6月2日 東京都 虎ノ門ヒルズ フォーラム

KKE Vision2022 への参加

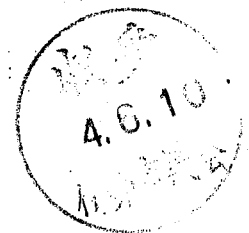
6月3日 東京都 株式会社構造計画研究所

構造計画研究所が行う自治体連携の調査

RemoteLOCK RiverCast について

視察概要：別紙参照

視察所感：別紙参照



概要

東京都 虎ノ門ヒルズフォーラムにて開催された、KKE Vision2022 においてセミナーに参加するとともに各会場を見学した。

セミナー詳細は (<https://www.kke.co.jp/release/13270>) 並びに別紙資料の通りである。

所感

本セミナーは株式会社構造計画研究所が主催し、複数の技術分野にまたがる社会課題をどのようにして乗り越えていくか、専門領域の枠を超えた知見の掛け合わせによって解決に取り組み糸口を探したその成果やこれからの展望を示すものである。

「これからの社会をいかにデザインするか」「領域を超える」というテーマの元、様々な価値のあるフォーラムが展開されました。

特に印象的であったのはバーチャル空間を現実の課題解決に導いていく技術の進歩とそのリアルさであり、都市構造、災害予測、防災、危険予測から、観光、強度試験までデジタルを活用することで可能となる現実の補完を行う技術には大きな可能性を感じた。

展示会場で体験した3D モデリングスキャナーはわずか9kgの機械により広い会場であっても数分でのモデリング構築が可能であり、例えば観光地や商店街のバーチャル化を簡易に実現することが出来るシステムであった。タグ付けとショッピングカートとの連動さえあれば安価におはらい町やおかげ横丁、二見旅館街などをネット空間に出現させ商売を行うこともできる。そんなところまですでに技術は進歩している。

新型コロナウイルスの流行により大きな技術革新がデジタル分野に訪れていることを改めて感じる事が出来たし、官民だけではなく民間同士でも伊勢市にも取り入れることが出来る技術が数多くあった。街の発展を考えることが出来たという意味ではとても良い調査研究となった。

概要

多くの自治体と協定を結び、それぞれの自治体にイノベーションを起こしている株式会社構造計画研究所 (<https://www.kke.co.jp/>) にて連携に至る経緯を伺うとともに RemoteLOCK RiverCast など同社が取り扱う技術の聞き取りを行った。

所感

構造計画研究所は「エンジニアリングのプロフェッショナルが、科学的な知見に基づいた知識やノウハウを提供する Professional Design & Engineering Firm」である。会社の歴史は古く 1956 年に建物の構造設計業務からスタートし、現在は東証スタンダード市場にも上場している。

六本木ヒルズ建設や熊本城再建などにも関わり、従業員数も 600 名を超える法人である。同社は「茨城県小美玉市と ICT を活用した持続可能な公共施設の管理に向けた覚書締結」、「兵庫県芦屋市との「ICT を活用した持続可能な公共施設の管理に関する基本協定」の締結」、「熊本県大津町と ICT 技術の活用に向けた包括連携協定締結」など自治体との連携実績が多数存在する会社でもある。

今回、特に注目した技術の一つである RemoteLOCK はいわゆるスマートロックの一種でもあるが特徴の一つとして比較的安価であるという事があげられる初期費用は 35,000 円 (別途工事費)、月 1,500 円の管理料で使用ができる。予約システムの構築や連携は別途費用が必要であるが、それでも今の伊勢市のシステムとランニングコストはさほど変わらない。

RemoteLOCK はクラウド化により鍵の自動発行、入退室の自動管理を行っており、人件費の抑制が可能というだけでなくセキュリティ面の強化も可能である。また、防災用途としては、発災時にマスターパスワードの共有さえできれば物理キーの管理者がいなくても開錠が可能となる。つまりは管理者死亡の場合においてもメールなどで番号を発行すれば開錠が可能という事である。そのような利点もある。

すでに導入している自治体では 1 施設の実証実験から高齢者の使用にも問題がないという事から対象施設が拡大されたという経緯もうかがった。スマートロックについては他にも製品があるためそれぞれに特徴はあると思うが、どの会社の製品を使うかは別としても導入はするべきだと考える。ICT 技術は今日導入して明日から皆がすぐ使えるものではない。利用者の慣れや利用者に対する教育も必要である。

同社の洪水予測システム、RiverCast にも言えることではあるが、防災、利便性、低下するマンパワーの代替えとしても今後も積極的な ICT 導入を働きかけてきたい。

視 察 報 告 書

令和4年8月31日

伊勢市議会議長 世古 明 様

自由民主党
幹事長 野崎 隆太

先進地視察を実施しましたので、下記のとおり報告します。
記

日 時：令和4年8月16日～18日

視察事項：8月16日 静岡県 焼津市

ドローン隊及びドローンに関する事業について

8月17日 埼玉県 久喜市

教育デジタル化、民間連携プログラム事業について

8月18日 東京都 品川区役所

子どもたちのアイデアを活かした公園ワークショップについて

視察概要：別紙参照

視察所感：別紙参照



静岡県 焼津市

ドローン隊及びドローンに関する事業について

概要

静岡県焼津市は全国的にも知られた防災の先進地である。ドローン整備を控える伊勢市の施策をより発展させるため先進地視察を行った。

※視察資料及び写真は重複があるため他会派の提出されたものに一任します。

所感

焼津市のドローン事業のメインはソフト事業である。もちろんハードとなる機体の選定は重要であるが、やはり大切なことは運用方法と人材教育である。

焼津市のドローン事業の発展は庁内に講習を行える職員がいたこと、防災用だけではなくドローンをどのように活用していくかの議論が庁内で進んだことある。

活用の方法を中心に考えたからこそ、現場の職員や消防団員に免許を取らせることにもつながったと考えられるし、平時にもシティプロモーションなどで活用される結果となっている。

実際に災害が発生していない平時の方が多という現実が存在している。伊勢市では消防が管理することとなっているが、平時運用については考えていくべき課題であろう。それは訓練という側面でもあり、庁内で事業を構築するときにドローンという視点や気づきをもたらすことにもつながると思う。焼津市に行ったことで消防がドローンを管理することが正しいのかという気づきを得たことは大きな成果であったと思う。

ドローン事業において一つ気になることは国際情勢と国の方針である。世界シェア6割のDJI社は中国系企業である。昨今の国際情勢を見るといずれかのタイミングで技術的な問題により市場からの締め出しは考えられる。機体選定にあたっては様々な状況を確認していきたい。

埼玉県 久喜市

教育デジタル化、民間連携プログラム事業について

概要

埼玉県久喜市は全国に先駆け教育のデジタル化を推進しているデジタル教育の先進地である。市の教育行政の飛躍のヒントを得るべく先進地視察を行った。

※視察資料及び写真は重複があるため他会派の提出されたものに一任します。

所感

久喜市のデジタル教育は非常にレベルが高く魅力的なものであった。

例えばプログラミング教育では実際に入力したプログラムでロボットが動き、簡易 CAD で作成した工作物を 3D プリンターで出力し、教育用ドローンも実機を使用。まさに体験型のデジタル教育であった。

生徒は授業中に自由にタブレットを扱い例えば黒板が見にくければ授業と連動したタブレットの画面で自ら確認を行う。コロナ禍においては通学、自宅を自ら選択し、授業を行う。操作方法は生徒同士で教えあい、授業で学んだ成果の応用は遊びの中で育まれる、生活の中に学習が溶け込むという意味では理想的な環境でもある。

久喜市のデジタル教育は梅田久喜市長の元に強く勧められたものと考えているが、梅田市長が先端を進み、先進的に取り組んだからこそ多くの民間連携や国の補助が獲得できたのだと思う。

伊勢市のキャリア教育を否定する意図はないが、久喜市で行われているプログラミング教育は周辺の大手の企業が授業に関わることで実際の将来の自分を想像できることも大きい。Google、Lenovo、IBM、amazonなどの企業に関わることで、ある種のシティプロモーション、シビックプライドの醸成にも効果を感じた。

教育はすべての礎ということが出来るが、10年後、20年後に伊勢市は久喜市に負けない大人を育てることが出来るか。初心を思い出し人材育成、未来への投資について考えるきっかけとなる良い視察であった。

東京都 品川区役所

子どもたちのアイデアを活かした公園ワークショップについて

概要

東京都品川区は公園の新設にあたり、誰もが利用できるインクルーシブという考え方を取り入れている。公園の改修を控える伊勢市の参考とするため先進地視察を行った。

※視察資料及び写真は重複があるため他会派の提出されたものに一任します。

所感

品川区のインクルーシブ公園は、区という基礎自治体が都や国よりも先駆けて手がけ実施したものである。その過程では多くの利用者の意見を聞き、障害を持つ人と持たない人両方の意見を反映させ、結果として障害を持つ人、持たない人の兄弟が初めて同じ場所で遊ぶことが出来たと区民を感動させる成果を生み出している。

品川区でも多くの視察資料を拝見したが、例えば子供たちが描く理想の講演や遊具について書かれた数十点のイラストを担当者が大人の目線で検討し、実際に反映していったら子供を見ると、相手が子供であっても、手間であろうともいかに区民の理想をかなえるかという担当課の強い想いやプライドを感じた。

一方で忘れてはいけない事は子供の遊び場は挑戦の場でもあるという事だ。インクルーシブという言葉の間違えてとらえ、誰もが使えるより安全で無難な場所となってしまう。私が子供の時は落ちたらけがをするような遊具も数多くあったし、それにより心身ともに成長したことももちろんあった。全ての人に成長をもたらすという視点も忘れてはならない。ゾーンニングという考え方も一つであろう。報告書作成にあたりそんなことも考えた次第である。

いずれにしても伊勢市では今後二つの大規模公園整備が予定されている。それぞれの公園がより特徴的なものとなり、多くの市民の理想をかなえるものとなるよう私自身も努力をしていきたい。

「誰もが利用できる安心安全」この言葉は非常に深いものでもある、この言葉を成長が鈍化させる呪いの言葉に変わってしまわぬよう品川区の子供たちのようにチャレンジする姿勢を忘れず、今回の視察結果をより多く市政に反映させていきたい。

また、余談ではあるが、今回視察会場と伊勢市をオンラインでつなぐという事に急遽挑戦をした。結果として有意義な成果があり、成功といえたと思う。議会のデジタル化は着実に進んでおり、皆がその目線を持てば更なる飛躍が出来るであろうという事を記しておきます。

視 察 報 告 書

令和4年11月11日

伊勢市議会議長 世古 明 様

自由民主党

幹事長 野崎 隆太

先進地視察研修を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

日 時： 令和4年10月28日（金）

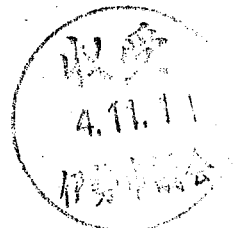
視察事項： 千葉県 幕張メッセ

第13回 Japan IT Week 秋で開催される各展示会への参加

<https://www.japan-it-autumn.jp/>

視察概要：別紙参照

視察所感：別紙参照



千葉県 幕張メッセ
第13回 Japan IT Week 秋

概要

千葉県 幕張メッセにて開催された、第13回 Japan IT Week 秋において各会場を見学した。

展示会詳細は (<https://www.japan-it-autumn.jp/>) 並びに別紙資料の通りである。

所感

3年ぶりとなった IT に関する展示会視察であったが、この3年間で IT、AI、メタバースなどは確実に社会への浸透は深まったといえる。特にメタバースの分野は以前であれば自治体展示は考えられなかったが、産官学それぞれの立場での展示が見られた。

それぞれの企業や出展者に各分野における今後の予想や成長の方向性について伺うとともに、メタバースにおける統一プラットフォームの実現性についてなどの意見交換を行うことが出来た。

現在のプラットフォームやインターフェイスが統一されていないメタバースは、いずれ勝ち負けや淘汰がなされる状況にあると私は考えている。国産の共通プラットフォームやインターフェイスが出来るのか、海外プラットフォームやインターフェイスが覇権を握るのか、世界は統一に失敗するのか。

市民に利益をもたらす視点で考えたときに早期チャレンジも必要ではあるが、私個人としては地方自治体のメタバース事業は時期尚早だと感じている。2025年の関西大阪万博を見据えて官民連携での事業も始まってはいるが、多くのユーザー使われるシステムでなければ意味はない。一步間違えればというよりは、現行の多くのメタバース空間が規格戦争の敗北側になるという危機感を常に持ちながら、他方で一步踏み出す勇気をいかに持つか。IT分野は常に未知の危険があることを改めて感じた次第である。

地方自治体や地方議会に関わるより多くの方がよりこの分野の研鑽を積み、現在のグローバル化に対応する仕組みを作る必要性がある。改めてそのように感じた。

視 察 報 告 書

令和5年2月17日

伊勢市議会議長 品川 幸久 様

自由民主党

幹事長 野崎 隆太

先進地視察・政務活動を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

日 時：令和5年2月3日

視察事項： デジタル田園都市構想並びにDX推進に関する事項

預金保険機構

東京都千代田区大手町1-9-2 大手町ファイナンシャルグランキューブ

担当者：預金保険機構検査部長 御友重希様

東京国際展示場 ビッグサイト

防災産業展2023他同施設にて開催される展示会への参加

<https://biz.nikkan.co.jp/eve/bousai/>

視察概要：別紙参照

視察所感：別紙参照



預金保険機構

デジタル田園都市構想並びに DX 推進に関する事項

概要

東京都 預金保険機構にてデジタル田園都市構想並びに地域 DX に深い見識を持つ預金保険機構検査部長 御友重希氏と面会し、約 2 時間にわたり意見交換を行った。御友氏からはデジタル田園都市構想や今後の方向性、地方が目指すものなど多くの知見をいただいた。

また、後日一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団事務局員をご紹介いただきオンラインにて打ち合わせを行い、地方議員としての関りかたを議論した。

所感

意見交換と打ち合わせのため割愛

東京国際展示場 ビッグサイト

概要

東京都 東京国際展示場ビッグサイトに開催された、防災産業展 2023 他同施設にて開催される展示会において各会場を見学した。

展示会詳細は (<https://biz.nikkan.co.jp/eve/bousai/>) の通りである。

所感

防災の分野にも時代の変化が確実に訪れている。ただ人を守ればいいという観点から、デジタル化だけでなく持続可能性という視点も大きなトレンドとなっている。

本展示会場の一回でもグリーンインフラ産業展という名称の展示会が行われており、インフラ施設をいかに持続可能なものとするか、地球環境の負荷を下げるという視点を持ってどのような手法を選択していくかという事が大きなテーマの一つでもあった。

カーボンニュートラルという視点からごみ減量に取り組んできた企業が微生物による汚物の分解を研究し、避難所の悪臭を防ぐ対策や、防災用井戸を SDGs の視点から考え直し、世界の水問題解決につなげる取り組みを加速させるなど、緊急時を想定しながらもそれぞれの製品を平時にどのように使っていくか。という視点がより加速している状況にあることがよく感じられた。

本旨にも多くの防災施設や機器があるが、日常的に使われることは少なく、考えようによっては緊急時に使うことが出来ないことも想定される。もちろんそのために訓練を行っているが、生活の中での物が緊急時に使用できればそれは素晴らしい事であるなども感じた。

デジタル化については本市でもスマートシティ推進協議会が本格化していく事になるが、例えば消防団の出動に関するシステムもすでにアプリケーションが開発されていたりもする。本市協議会の中に消防団などの団体が入っているかの確認はしていなかったが、商工団体や地域団体だけでなく防災分野においても有用な技術であることは疑いようがない。

その他としてロボット分野に関する展示も数多くあったが、いずれにしても防災減災だけではなく、助けるまで、助ける人、助かった後のこと、これらの研究のヒントが数多くある展示会であった。